

福島第一原子力発電所 ガラスバッジベータ線測定窓への液体侵入による等価線量への影響の可能性について

< 参 考 資 料 >
2020年3月30日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

【概要】

- 3月26日、当社はガラスバッジ（積算線量計）の測定を委託している企業から以下の報告を受けた。
- 2019年4月から2020年2月の間に福島第一原子力発電所で使用されたガラスバッジ約6万個のうち、145個のガラスバッジにベータ線測定窓への液体侵入の痕跡が確認された。
- 当該ガラスバッジのうち、測定データの値に特異な傾向が確認された18個について、仮に測定窓に液体が満水であったと保守的な仮定をおき、試験的にベータ線の値を計算したところ、既に評価済みの線量評価の値より高くなる可能性がある。
- 当該18件は、全て協力企業作業員の測定値であり、本報告を受けて、各協力企業は、被ばく線量を修正する必要性の有無について判断する予定。
- なお、既に協力企業に報告済みの測定結果については、委託企業の品質保証に則した手順により評価された値であり、正しい値である。

【原因】

- ガラスバッジに液体が確認された原因を委託企業において調査中

【福島第一における暫定対応】

- 現在使用しているガラスバッジのベータ線測定窓に液体が無いか確認
- 液体が確認されたガラスバッジについては取り替えを実施（現時点で無し）